



第55回糖尿病学の進歩 共催セミナー18

# 『糖尿病診療における チーム医療のあり方や展望』

LIVE配信：2021年3月6日(土) 15:00～15:50  
※後日オンデマンド配信を行います。

## 座長

NTT 東日本札幌病院

病院長

吉岡 成人 先生

## 演者

H.E.C サイエンスクリニック

糖尿病センター長

調 進一郎 先生

※共催セミナー参加方法につきましては、第55回糖尿病学の進歩  
公式ホームページをご確認ください。

<https://site2.convention.co.jp/55shimpo/>

本セミナーをご視聴いただきましたら、セミナー視聴ページよりアンケートへのご協力をお願いいたします。  
該当項目へご回答いただきました方先着100名様に、ノベルティをプレゼントさせていただきます。  
詳細につきましては、アンケートページをご確認ください。

## 第55回糖尿病学の進歩 共催セミナー18 『糖尿病診療におけるチーム医療のあり方や展望』

H.E.C サイエンスクリニック  
糖尿病センター長 調進一郎 先生

我が国において糖尿病患者数は年々増加しており、厚労省の調査によると糖尿病が強く疑われる者は1997年には約690万人であったが、2016年には約1000万人と約1.5倍に増加している。同時に糖尿病を否定できない者も約1000万人と推計され、実に40歳以上の四人に一人が糖尿病もしくはその予備軍という時代である。近年DPP-4阻害薬やSGLT2阻害薬、GLP-1受容体作動薬など新しい作用機序の糖尿病治療薬の登場により、治療の選択肢は急速に広がっているが、全国の糖尿病専門医の団体であるJDDMのデータによると、2型糖尿病の平均HbA1cは7.10%、平均BMIは24.81kg/m<sup>2</sup>であり、糖尿病の治療目標をクリアできていない患者さんの存在も少なくないのが現状である。どんなに優れた薬剤を使っても、患者さんの生活（食事や運動）の改善なくしては、十分な治療成果を達成することはできない。また、糖尿病は自覚症状がないにも関わらず治療と長く付き合う疾患であり、治療中断を予防することも重要課題である。長期にわたって良い血糖コントロールを維持するためには患者さんを中心にした医療を心がけるとともに、患者さんに関わる家族や様々な医療者の協力が必要不可欠で、チーム医療の重要性も増している。

当院では医師をはじめ、薬剤師、看護師、管理栄養士、保健師、臨床検査技師など多くの専門スタッフを擁し、『早期に発見早期に治療で悪化させない医療』を目指し日々治療・療養にあたっている。そのうえで、当院は患者さんとのふれあいを大切に、『指導』ではなく『共感』を心掛けること、患者さんの理解・安心感を得ること、患者さんと共に考えること、問題点を皆で発見していくことなどを念頭に置いている。そうすることで患者さんの中に治療について納得し取り組む姿勢が生まれる。また、納得することで治療を前向きにとらえられ、より積極的な取り組みにも期待できる。

また、チーム医療とは通常一つの医療機関内での多職種連携を意味するが、他の医療機関やスタッフとの連携も広い意味でのチーム医療と言えよう。当院は医療機関やスタッフとの連携にも力を入れて取り組んでいる。糖尿病は合併症も多くあり、診療領域も様々であることから多くの医療者の協力と共同の作業で成り立っている。様々な専門領域や職種が連携することで幅広い医療を提供することができ、患者さんやその家族に対するサポートが可能となる。医療連携を行う上では、医療スタッフの質を向上させる取り組みも必要である。当院では地域における積極的で実践的な医療を実現するため、学習会や講演会などを開催し、地域における医療スタッフの教育についても取り組んでいる。

最近の糖尿病診療に関するキーワードとして、「患者中心の治療」「アドヒアランス」「クリニカルイナーシア」「スティグマやアドボカシー」などがあるが、これらのキーワードにチーム医療としてどうかかわるかなどについての私見を述べたい。

### 血糖値をよく見よう

自己検査用グルコース測定器

Glucocard  
**PRIME**  
グルコカード プライム  
GT-7510



単回使用自動ランセット

naturalet  
plus



採血用穿刺器具

ナチュラレット plus デバイス